

季刊 青春本棚通信

vol. 14



学年： 中3

ペンネーム： 松華



今回の表紙は青春本棚に投稿されたイラストを採用！青春本棚通信推しのステキなイラストありがとう！

ひとことカードや青春POPも募集中！（投稿方法は最終ページを見てね）



LINEUP



『第6回 松山市立中央図書館ビブリオバトル』を開催しました！

あの感動をもう一度！バトラーの皆さんがオススメ本を熱くご紹介！！

本好きのコーヒーブレイク

図書館員が選ぶ中高生に読んでもらいたい本

青春ひとことLINE

青春☆POP便

青春☆POP作成会のご案内

図書館ダンジョン・エクスプローラー

※掲示板用

2020

冬



「第6回 松山市立中央図書館ビブリオバトル」を開催しました！

10月27日に中央図書館で開催された、読書週間恒例イベント
知的書評合戦『松山市立中央図書館ビブリオバトル』！



中学生3名・高校生6名のバトラーの皆さんが、おすすめ本を熱く紹介し、観客も熱心に聴き入っていました。
『どの本が一番読みたくなったか』を全員で投票し、中学生の部、高校生の部ごとに**チャンプ**が決定しました。その紹介本を、バトラーたちからのメッセージで振り返ります。
どの本も、読みたくなること間違いなし！



バトラーの皆さん



<中学生の部>チャンプ 済美平成中等教育学校3年 杉山 千笑さん

紹介本『妻を殺してもバレない確率』（桜川 ヒロ//著・宝島社）

この本の題名を見た感じは、ミステリーの怖いのにしか見えませんか？中学生が物騒な本を読むの??って思われる方もいると思います。しかし!!! この本、ミステリーではないんです。心温まる7つの短編小説がつまった、オムニバス小説なんです！読んだら、題名と中身にギャップに心を掴まれます。題名と中身の温度差に風邪をひかないで下さいね。

この本の作者、桜川ヒロさんの出身地広島が舞台となっているので、最近流行りの“聖地巡礼”もしやすいのでは是非試して下さい。この本は、10代の私たちだけが読んで楽しいのではなく、1編1編主人公の年齢も性別もバラバラなので、老若男女、誰が読んでも楽しめる一冊です。ぜひぜひたくさんの人に読んで頂きたいです。



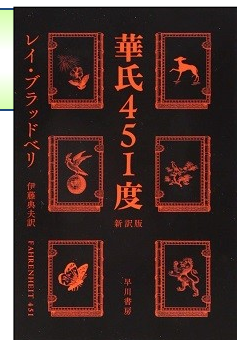
<中学生の部>バトラー 済美平成中等教育学校2年 宮崎 諒さん

紹介本『華氏451度』（レイ・ブラッドベリ//著・早川書房）

華氏451度とは紙が引火し、燃える時の温度。舞台は平和な未来社会。

人々は発達した科学文明により不自由な生活を送っています。映像や音などの娯楽はあるものの、唯一禁じられているものがあります。それは「本」です。主人公のモンターグはそういった「本」を燃やして処分する「昇火士」の仕事をしています。彼は今の仕事にやりがいを感じていましたが、ある夜にクラソスという風変わりな少女との出会いにより変わってきます。「本」への興味がわいてきたのです。その後、「本」を焼くことに葛藤していくモンターグですが、それ以外にもこの本の魅力が2つあります。1つはこの本が書かれたのは1953年ですが、イフォンといった現代の文明の利器が登場していることです。未来のことなのでたくさん便利な道具が出てきます。2つ目は「昇火士」という言葉についてです。

英語では「fireman」ですが、この意味は「消火士」。本来は火を消して安全を守る仕事ですが、本を焼いて「火を立ち昇らせる人」として社会を守るなんて、なんと皮肉がきいています。この本を読んであなたの「本」に対する考えが変わってくれればいいです。



<中学生の部>バトラー 松山市立拓南中学校3年 加藤 星五さん

紹介本『火花』（又吉 直樹//著・文藝春秋）

これは、著者である芸人の又吉直樹さんが若手時代に経験したことをもとに、成功することの難しさと成功までの過程を、売れない芸人の神谷さんと徳永の二人の人物を描くことを通して表現した作品です。そこには、又吉さんの知性と才能、そして努力があふれています。不完全な形の漫才の才能をもつ神谷さんと完全に近い文学の才能をもつ又吉さんが描く才能のひとかけらは、「語り手」と「語られ手」になるほど大きなものなのです。そして、その才能のつぼみを開花させるために必死に努力する神谷さんの姿が、この作品では中心的に描かれています。

この作品は、僕に努力とは自分の中にある不完全な才能のつぼみを開花させるためにするものだという事を教えてくれました。この作品は、潜在能力を顕在能力にするための大きなヒントとなるはずです。ぜひ、読んでみてください。



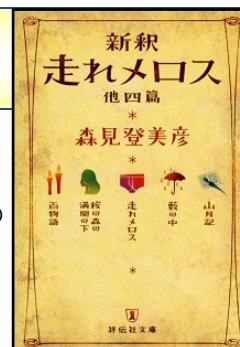
<高校生の部>チャンプ 松山南高等学校1年 井上 美月さん

紹介本『新釈 走れメロス』（森見 登美彦//著・祥伝社）

この本は、芥川龍之介や中島敦などの文豪の作品を現代を舞台に新たに書きなおした短編集です。その中でも今回、私が紹介したのは太宰治の「走れメロス」です。

走れメロスと言えば、セリヌンティウスのために走るメロスの美しい友情を描いたお話ですが、この森見登美彦版のメロスは、約束を守らないために走ります。一見、友を見捨てるようにも見える行為ですが、それこそが彼らのちよつと変わった友情なのです。友情のかたちは1つではないということを、私はこの話から学びました。

ストーリーが次々と展開され、ページをめくる手が止まらなくなったり、思わず笑ってしまうようなお話です。

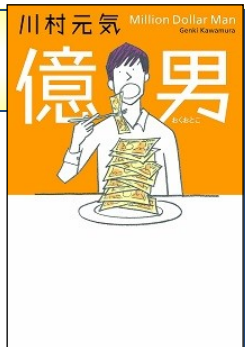




<高校生の部> バトラー 新田高等学校2年 住田 萌華さん

紹介本『億男』（川村 元気//著・マガジンハウス）

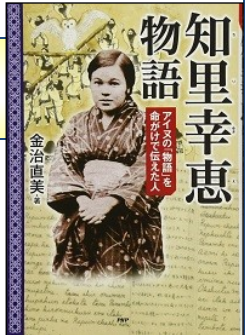
失踪した弟の借金3千万を背負うことになった一男。2つの仕事を掛け持ちするほど借金の返済に追われていた彼は、宝くじに当たり3億円を手に入ることとなる。大金の使い道に困った一男は、大学時代の親友で起業して成功し数百億の財産を持っている九十九のもとを訪れる。が、酒に酔っている間に、九十九は3億円とともに消えていた。一男は3億円と九十九を捜すため、ある3人の人物に会いにゆく。消えた3億円の真相は何か？そして億万長者のはずの九十九が3億円を奪った理由とは？誰も無関係ではいられない、お金とは何かを問う物語。また、登場人物の名前の共通点など、細かい点にも注目するとさらにおもしろく、一文一文に作者のこだわりが詰まっており、結末はわかっているけど、読み返すたびに新たな発見がある。



<高校生の部> バトラー 新田高等学校1年 松岡 孝樹さん

紹介本『知里幸恵物語』（金治 直美//著・PHP研究所）

この本は、アイヌの女性の知里幸恵の生涯が書かれています。「アイヌ」とは、北海道に昔から住んでいる先住民族のことです。知里幸恵がいなかったら、今、アイヌの伝統文化は絶滅していたかもしれません。彼女は、19年という短い生涯をかけてアイヌの伝統文化の復活に力を注ぎます。周囲からの差別、転機となる人物との出会い、悲しい恋等々、読んでいて目が離せません。本を読むのが苦手…という人にも読みやすい本です。アイヌや北海道についても書かれていますので新しい発見もあります。是非一度読んでみて下さい！

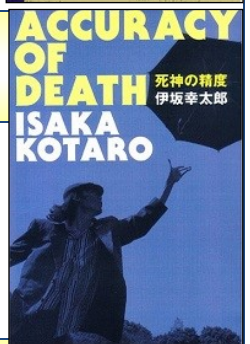


<高校生の部> バトラー 松山中央高等学校2年 水元 葵さん

紹介本『死神の精度』（伊坂 幸太郎//著・文藝春秋）

この本は題名の通り死神が登場します。クールでちょっとズレてる音楽が大好きな彼(死神)の仕事は、担当する人間がもう死んで良い人間なのかを判断することです。彼が会う人間は、老若男女様々でどの人も一風変わった物語があります。彼は色々な姿で彼・彼女たちと触接します。ある時は青年だったり、ある時は老人だったり。もしかしたら、あなたのとなりにいる人も、死神かもしれませんね。

死神が会える6つのストーリーで涙してみませんか。



<高校生の部> バトラー 松山城南高等学校3年 國仲 研一さん

紹介本『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』（伊藤 公一朗//著・光文社）

題名は堅苦しい本ですが、ビブリアバトルでは紹介しませんでした。図表も多く、中学生でも読みやすい本だと思います。この本には多くのビジネス戦略の例が書いてあります。ビブリアバトルの時にはオバマさんのマーケティング戦略について話しましたが、ここではオバマさんのエビデンスに基づく政策形成について軽くふれます。政策担当者の多くは【支出の大きさ】を主眼とした政策形成をしていますが、今後は【政策効果の大きさ】をものさしにすべきといった考え方です。

私たちのまわりには多くのデータがあります。それらを正しく使う方法や考え方を身につけることで、あなたの価値観も変わると思います。ぜひ手にとって読んでみてください。



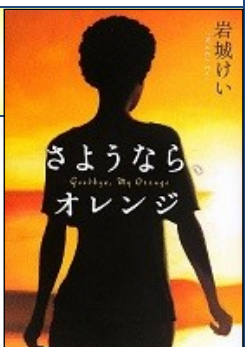
<高校生の部> バトラー 松山南高等学校1年 高田 佳音さん

紹介本『さようなら、オレンジ』（岩城 けい//著・筑摩書房）

オーストラリアに難民としてやってきたサリマ。精肉作業場で働きつつ、二人の子供を育てています。のちに兄の方は夫の所に行ってしまいます。弟は学校の授業で母の話を聞いたことがキッカケで残りました。母語の読み書きすらままならない彼女は、職業訓練学校で英語を学び始めます。そこでは、自分の夢を半ば諦め、夫の仕事の都合でオーストラリアへ渡ってきた日本人女性、ハリネズミとの出会いが待っていました。

サリマの「こんなあたしを罵るなら罵るがいい、去る者は立ち去ればいい、だけとあたしの生まれ持ってきたものは誰も奪えない、そして掴んだものを奪うことは二度と許さない。」という言葉が特に印象に残りました。オーストラリアに来るまで大切な人や物を奪われてきましたが、仕事を始めて変わりました。自分の中の軸を持ったことで変わったのだと思います。同じことが、私たちの毎日にもあると思います。

自分の中にある軸、自分のやりたいことや考えがしっかりとしている人は、周囲の人と比べても、行動が違っていたり、さまざまな主張をすることができると思います。心を開き、相手の言葉にしっかりと耳を傾け、自分の軸をしっかりと持つことは大切だと思いました。



☆バトラーの皆さん、素晴らしい発表をありがとうございました☆
★ビブリアバトルに興味のあるアナタ、来年の応募お待ちしております★



若き世代に新たな世界の扉を開く、すばらしき読書のひとときを——

本好きのコーヒブレイク

図書館で働くオトナたちはやっぱり本が大好き！そんなオトナたちがホッと一息つくコーヒブレイクに、「**中高生にこれからの冬に読んでもらいたいな**」と
思いついた本を紹介します。さあ、あなたもまだ見ぬ新しい世界の扉を開いてみませんか？



【分類番号：916-ヤ】

『国境のない生き方 私をつかった本と旅』 (ヤマザキ マリ//著・小学館)

現代日本と古代ローマがお風呂で繋がるという奇想天外のマンガ、『**テルマエロマエ**』はこうして生まれた！**ヤマザキマリさん自身の地球規模の波乱万丈の半生**。

旅した国は数知れず。イタリアで子どもを身ごもった時は人生のドン底。でも彼女はいうのです。“**こんなタイミングでもこの子が私のところに来てくれたのは、ポロポロになって死にかけているこの私を生き延びさせるためじゃないか。産もうー。**”と。そうして日本でやり直すために初めて漫画を書き、デビューに至るのです。

もうだめと追い込まれた時こそ、世界に向かってもっと自分を開いていった方がいい。本当に自分が欲している栄養分はなにか。今いる環境の中に自分のプラスになるものがないのなら、それを探す手間を惜しまないこと。そのためには、やっぱり、歩き出すしかない。彼女の人生で必要な時期に出会うべくして**出会った数々の本は、彼女の教養を裏打ちし、ボーダーを超えて行く原動力となっているようです**。

図書館 藤原



【分類番号：470-オ】

『美しい小さな雑草の花図鑑』 (大作 晃一//写真・多田 多恵子//文・山と溪谷社)

シロツメクサの花…と言われたら、どんな花かすぐに思い出せますか？ナズナの花はどうでしょう？オオイヌノフグリは？カラスノエンドウは？

今回ご紹介する本は、**校庭の隅や道端などで見かけるような雑草の花が、超拡大写真で紹介されている、ちょっと変わった図鑑**です。ページをめくって驚くのは**それぞれの色の美しさ、造形の精妙さ**…。添えられている文章も、植物の世界への愛情が感じられるわかりやすい解説文です。

寒い冬にも、やがて来る春にも、**草たちは小さな花を咲かせ、種子を次の代に送りながら、私たちと同じ世界で生きています**。この本を片手に、植物の豊かな生態に目を向けてみませんか。

図書館 小池



【分類番号：596.6-エ】

『ピエール・エルメが教えるチョコレートのお菓子』 (ピエール・エルメ//著・旭屋出版)

突然ですが、**チョコレートはお好きですか？**私は大好きで、チョコレートを食べると、とてもホッソルします♪この本には、初心者向け～上級者向けの、**ピエール・エルメさんならではのチョコレートのレシピ**がたくさん載っています！各種の**デザートを作る秘訣が写真付きで書かれていて、**分かりやすいですよ。

日頃お世話になっている方や大切な方へ、**感謝の気持ちを込めてチョコレート**をプレゼントしてみたいかがでしょうか？**バレンタインデーに向けて、**試作品として作ってみるのもいいかも…♪

図書館 土屋